

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	國安 勝司	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(リハビリテーション学)	
学位授与番号	乙第22号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第4項該当	
論文題目	頸椎間歇牽引の非侵襲的評価法に関する研究	
審査委員	教授 渡邊 進	教授 井上 桂子
	教授 古我 知成	

博士論文内容の要旨

頸椎症性脊髄症診療ガイドラインによると、頸椎間歇牽引療法についてはエビデンスがなく、その意義について今後検証する必要があるとされている。客観的な評価を行なえば、適応や治療継続の必要性について明確にすることができる。本研究では、健常人を対象として、頸椎間歇牽引の非侵襲的評価法について検討した。

評価項目は牽引実施前後、実施中の皮膚血流量、皮膚温度、皮膚電気反射、組織血流量、筋電図、超音波画像による筋厚の測定とした。皮膚血流量、皮膚温、組織血流量など血流に関する測定値は個人差が大きく、一定の傾向を見出すことは難しかった。また、超音波診断装置を用いることで牽引の影響を直接確認できたことにより、効果的な牽引力や牽引方向などの設定が可能になると考えられた。今後、骨を指標とした描写方法を工夫できれば、牽引力が働いている部位の特定ができ、より効果的な牽引の方法が決定できると考えられる。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、理学療法の治療法の一つである頸椎間歇牽引の非侵襲的評価法について検討したものであり、大変意欲的な労作である。頸椎間歇牽引療法は、臨床現場ではよく使用されているが、未だにエビデンスは乏しいといわれている。エビデンスを高めるために理学療法士が行える非侵襲的評価法と指標の検討は、リハビリテーション医療に貢献できると思われる。発表では、物理療法の歴史から頸椎間歇牽引療法の位置づけを明示し、筆者が長年理学療法士として治療にあたったこともあり、この療法についてよく理解していることがうかがわれた。健常成人に対しての牽引は、実際の患者に対する治療とは明らかに異なる点もあり、本研究の結果を今後の牽引療法の研究に活かして欲しい。論文内容は、すでに学術雑誌に4編の論文(邦文誌3編、英文誌1編)として掲載あるいは受理されており、本研究のレベルの高さと新規性を示している。また、予備審査会での指摘に対しては十分な訂正がなされていた。審査の結果、本論文は博士論文に十分に値し、合格と判定された。